

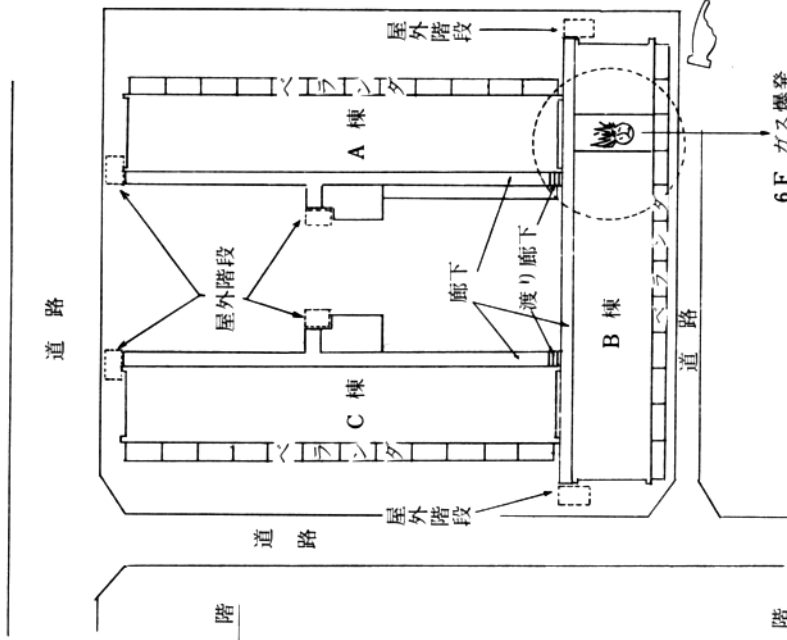
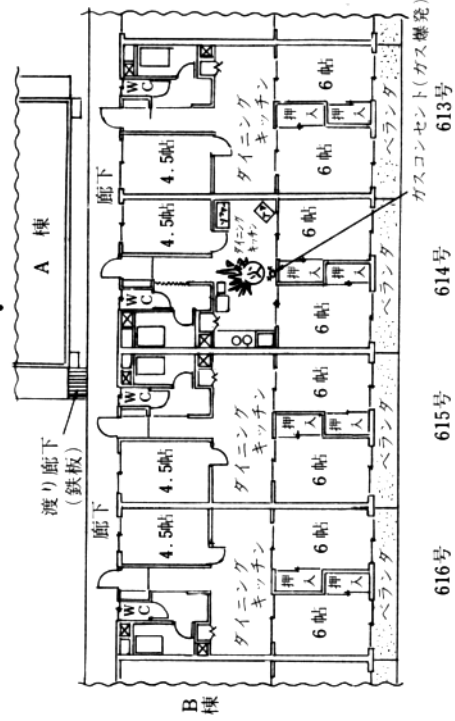
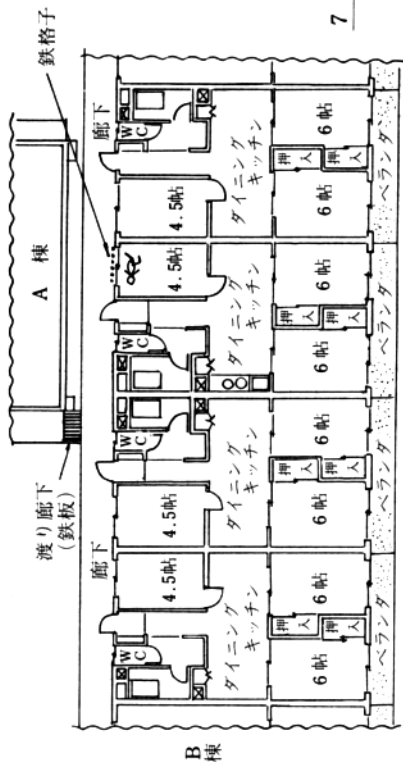
名 称 所 在	用 途 (令別表)	発 生 日 時 等	構 造 ・ 階 層 面 積	焼 損 程 度 (焼 損 面 積 延 面 積)	死 傷 者
秀和めじろ台 レジデンス 八王子市栢田町 1210番地	共同住宅 (5)口	昭和50年11月23日	耐火 Ⅲ	全・半・部・小	死者 2名
		出火2時07分ころ 覚知2時12分 覚知別 報知電話 鎮火4時22分	建 2,409.04m ² 延 25,702.86m ²	314m ² (1.2%)	傷者 19名 (2)

I 火災概要								
① 概 要	深夜、6階614号室で爆発火災があり、6階と7階の床が爆風で5階に落下して、5、6、7階が一挙に延焼拡大したこと、爆発による爆風により、出入口等が閉鎖される等により、最上階(11階)で発生した死者を含めて、死者2名、負傷者19名が発生している。この建物は、HPC工法の耐火造11階建て、北側両端よりに別棟が「コの字型」に建っている共同住宅である。							
② 階 別 状 況	階	床面積 m ²	焼損床面積 m ²	用途(売場)	在館者	死 者	避難設備等	消防用設備等
	RH	73.62					屋外避難 階段 2箇所	⑦ ベル ⑧ 連 ⑨ コ ⑩ 消 ⑪ 水 (採水口)
	11	2,322.02		共同住宅		1		
	10	2,322.02		〃				
	9	2,322.02	62.7	〃				
	8	2,322.02		〃				
	7	2,322.02	62.7	〃		1		
	⑥	2,322.02	125.4	〃				
	5	2,322.02	62.7	〃				
	4	2,322.02		〃				
	3	2,322.02		〃				
	2	2,322.02		〃				
	1	2,409.04		〃				
合計	25,702.86	313.5			2			
③ 出 火 場 所	(階、室、部位、可燃物状況、居室・非居室、在・不在) B棟 614号室より出火 3DKの住居で、発災当時男(31才)一人が在宅中であった。 居室内装は、木造下地の合板、麻布張り等の仕上げであった。					④ 出 火 原 因	ガス爆発(都市ガス) すき焼をしようとして、ガスカランにホースを結合し、準備を始めたが、材料がなかったため中止し、ガスホースをガスカランから抜いてガス栓を閉じたつもりが、誤って「開」の方にまわしたままにして寝こんでしまったため、何らかの火源により漏れたガスに引火爆発したものと推定される。	

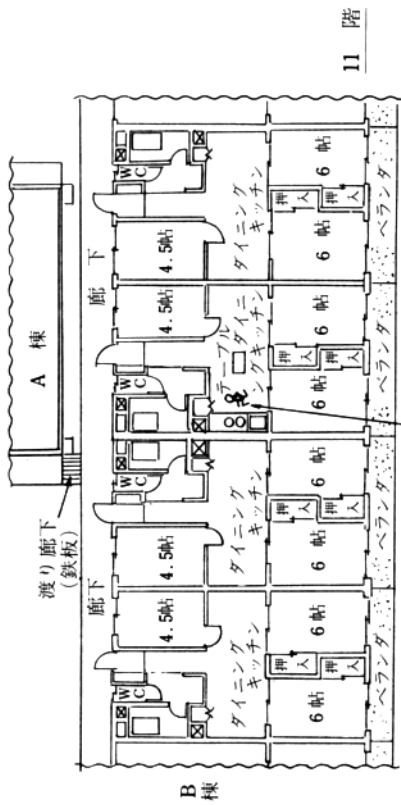
⑤ 火 災 の 延 焼 経 路 等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">(出火部位) 614号室</div> <div style="text-align: center;">(出火室の拡大) ガス爆発</div> <div style="text-align: center;">(上, 下, 左, 右階への拡大) 爆風による床・天井の落下 壁の破壊亀裂</div> <div style="text-align: center;">(9階への延焼) 開口部(窓ガラス) の一部破損</div> </div>			
	<p>爆発により出火室のダイニングキッチンの床と天井が完全に落下したため、上下階に延焼し全焼(両室)。両隣の部屋は、出火室との間の壁に爆圧で生じた破壊亀裂部分から延焼した。6階から9階への延焼は、各室から出た炎がバルコニーの外部で合流し、ややまわり込むように上昇したため、8階の部屋を飛び越えて9階の部屋に延焼したものと推定される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 延焼拡大した主な理由 <ul style="list-style-type: none"> ○ 爆発により出火室の壁、天井、床が破壊した。 ○ 漏洩した都市ガスに引火爆発し、一挙に拡大すると共に、破損したガス管からの漏洩したガスが燃焼し火勢を強めた。 ○ 火点が「コの字型」の死角部分で別棟にさえぎられ、初期における有効注水が少なく火勢阻止に時間を要した。 ○ 煙の伝播経路 <ul style="list-style-type: none"> ○ 爆発により破壊した床、天井、壁、ガラス窓から火炎の延焼と同じく噴出上昇した。 			
II 火災建物概要				
① 建 築	着工・竣工又は主たる改築等 (建築確認) 昭和46年10月20日 (使用検査) 昭和48年1月19日			
管 理 状 況	② 縦 穴 の 状 況		③ 防 火 管 理 状 況	
	階 段 <input checked="" type="checkbox"/> ダクトスペース <input type="checkbox"/> エレベーター <input checked="" type="checkbox"/> パイプシャフト <input type="checkbox"/> エスカレータ <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 管理状況は普通		防火管理者選任届出済 消防計画作成届出済 実質的な訓練は実施されていない。	
管 理 状 況	④ 防 火 区 画 等		⑤ 消 防 用 設 備 等	
	各住戸区画		良 好	

III 火災後の行動	
① 発見状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発見者 (居住者, 付近住民) ○ 発見の動機 (ガス爆発音と衝撃) ○ 発見後の行動 (避難)
	<p>爆発の衝撃により, 居住者, 付近住民が一様に気付く。</p>
② 通報状況	通報 した <input checked="" type="checkbox"/> (B棟1119号室の居住者) 発見後約()分 しない <input type="checkbox"/> (爆発)
	<p>B棟1119号室の寝室に寝ていた居住者K(34才)は, 「ドカン」という音で, すぐ爆発と思い, 外も見ずに自室の電話で通報した。</p>
③ 初期消火状況	成功 <input type="checkbox"/> 失敗 <input type="checkbox"/> 消火した <ul style="list-style-type: none"> ○ 消火時期 <input type="checkbox"/> ○ 消火困難性 <input type="checkbox"/> ○ 消火方法 <input type="checkbox"/>
	(理由又は状況) 爆発により床, 天井, 壁が破壊落下し, 一挙に延焼拡大したことと, 火元室の居住者が床とともに階下へ火だるまとなって落下するような状態であったため, 消火どころではなかった。
④ 消火活動概要	(消防上の支障・困難性等) <ul style="list-style-type: none"> ○ 梯子車が接近できるだけの有効な道路幅が確保されていないうえ, 梯子車の活用できない建物配置になっていたため, 直接架梯が不能で, 梯上放水を余儀なくされたうえ, 放水開始まで相当の時間があつた。 ○ 爆発事故の為, 消防用設備等の有効活用が限定され, 防ぎよ遅延をまねいた。 ○ 建物が大きく, 居住人口が多いため, 情報収集, 居住者の動行確認が非常に困難であつた。 ○ 検索する部屋が多く, 各階にまたがったため, 確認が遅れた。

	避 難 方 法	避 難 上 支 障 事 項
⑤ 避 難 状 況	○階段を利用 <input checked="" type="checkbox"/> (大部分の人) ○エレベーター、エスカレータ利用 <input type="checkbox"/> (人) ○避難器具を利用 <input type="checkbox"/> (人) ○窓、開口部から直接地上へ <input type="checkbox"/> (人) ○救助 <input checked="" type="checkbox"/> (2人) ○その他() <input type="checkbox"/> (人)	○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input checked="" type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	大部分の居住者は、玄関から出て廊下、階段を経て避難しているが、次のような避難方法があった。 ○玄関の扉が変形して開かず、便所の窓から避難した。(713号室, 914号室の9名) ○濃煙のため玄関から避難できず、ベランダから隔壁を壊し隣室の玄関から避難した。 ○玄関の扉が変形して開かず、居室の窓(鉄格子無)から避難した。(1114号室の2名) ○消防隊により救助された。(814号室, 1114号室の2名) ○出火室の男1人が床落下とともに514号室に転落し、同室の居住者の助けより、一緒にベランダより515号室へ逃げ避難した。	
⑥ 死 者 の 状 況	健康人 2名 (泥酔者 名) 要保護者 名 乳幼児 名 高齢者 名 身体不 自由者 名 病人 名	避難上支障となった事項 ○無 窓 <input type="checkbox"/> ○開口部の格子等 <input checked="" type="checkbox"/> ○非常口(出入口)等の施錠 <input type="checkbox"/> ○警報設備 <input type="checkbox"/> (管理不良, 機能不良, 未設置) ○停 電 <input type="checkbox"/> ○その他 <input type="checkbox"/>
	○714号室の4.5畳間で就寝中の女性(21才)は、爆発によりダイニングキッチンの床が落下し、急激に延焼拡大するとともに、廊下側の窓に鉄格子が取付けてあったため、逃げ場を失い死亡した。 ○1114号室には、一家4人が就寝中であつたが、玄関の扉が変形して開かなかったことから避難に手間どつたが、夫と長女は居室の窓から避難したが、妻(31才)と次女(3才)は逃げおくれ、消防隊により救助されたが、妻は一酸化炭素中毒で死亡した。	
IV 問題点・教訓等		
1. 6階、7階の床が爆発で破壊落下し、514, 614, 714号室が一挙に延焼拡大したため死傷者が多数発生し 2. 廊下に面する居室の窓に鉄格子を取り付けている室が多数あったため、爆発で玄関の扉が変形して開かなくなったため、避難が困難となった。 3. 高層共同住宅は、梯子車が接近できる道路を確保する必要がある。 4. 本火災では、駐車中の車両や電柱等により架梯障害があった。		



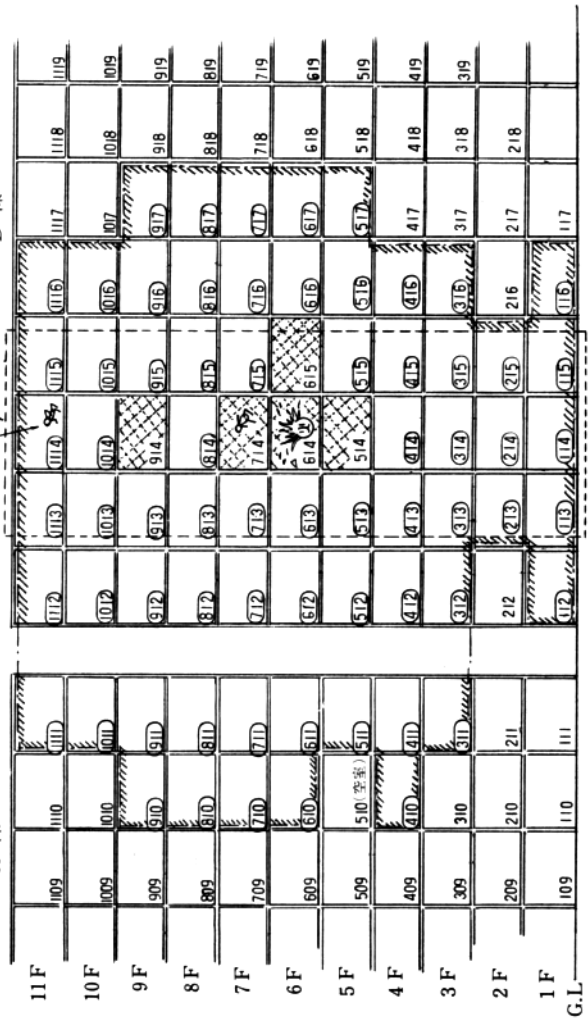
配置図 ⑧ A,B,C棟の各階は、鉄板の渡り廊下で接続している。



1116号

1115号

1114号



凡例

- 全損 (5室)
- 小損 (67室)
- 小損区域
- A 棟建造位置